

## 2012年エフネット選抜タイ遠征

伊藤 玄

今月2日から5日にかけて、フットサルW杯が行われているタイにて、タイリーグプロチーム2チームと大学チーム1チームとの対戦を含むタイ遠征に参加してきました。約4日間という弾丸企画でしたが、自分のフットサル人生の中でも本当に濃い経験ができた4日間でした。

この遠征に臨んだメンバーの内訳は4年生2名、3年生3名、2年生1名、1年生4名でした。初めて自分が東川口の練習に参加したのがチームの活動としては2度目、とにかく1年生のフットサル戦術の理解を深めないことには、ということだったので練習の内容も金子監督からの守備の約束事やセットプレーのサインなどで、実践的なことは最後に一度ゲームをしたのみ。ゲームではキーパーがいなかったのでFPでまわりましたが、1年生の堤○君がサッカーのスローインのようにクリアランスをしたときは思わず笑ってしまいました。笑

こんな感じでタイのプロと闘えるか正直自分の中では不安もありましたが、しっかりひとりひとりを見てみると、ボールへの執着や全力でやりきる姿勢など、いい意味で怖いの知らずでガッツがある選手が集まっているな、と感じていました。

練習中、金子さんの口からたびたびチャレンジという言葉が出ていましたが、まさに今回のテーマは「チャレンジ」。できないこともたくさんあるけど、それよりも「やろうとする姿勢」や「ひとりひとりが持つ光る部分」に目を向けてチームとしてアグレッシブな姿勢を貫こう、ということが一つ、決まったような気がしました。

そしていよいよ本番の日を迎え、タイに到着。正直ついた途端から移動の疲れとタイの暑さで体のダルさを感じましたが、空港からバスでそのまま試合会場へ。

タイ名物の渋滞のため、軽食を取ったりアップをする時間もあまりなく、着いて「はい、じゃ試合」という感じでした。しかも相手はタイリーグ4位のスラタニーFC。練習生のベッチーニョはじめ、ゴツイ選手だらけ。

試合開始直後5分くらいの雑感は、「一人一人は強い、でもDFはルーズだし、うまくやれば勝てるぞ」という感じでした。そしてサイン通りのセットプレーから先制。

しかしその後はこちらのマークチェンジミスやカウンターから走り負けて失点を重ねてしまい、結果は1-6の負け。試合の中でも個人で1対1を仕掛け、チームではエントラを狙おうということで果敢に挑みましたが、ボールが足につかなかったり、蒸し暑さで消耗したりとアウェーの洗礼を受けたような形で完敗。

上級生はふがいなさ、1年生はフットサルの洗礼を受けてショックを受けている様子でした。

2日目の午前にはツアーガイドのアレックスの案内でタイの観光名所を回りました。

このツアーガイドのアレックスさんはなかなかのやり手で、1日目の夕食にマックをチョイスしたり、めちゃくちゃ高そうなお土産店に連れて行かされてたり、と絶妙のやる気のなさ、ゆるさを出してきました。2日目も僕たちには寺院のめちゃくちゃ急な階段を上らせておいて自分は上らないなど、「アレックス、大丈夫？」というくだり、何回あったかわかりません。笑

昼食時にはこのあとの2試合に向けてミーティングをしました。自分はどんなことがしたいか、そのためにみんなにどうしてほしいかということをはっきりとしゃべりました。自分はせっかくタイまで来たのだから、ということでチームをいい方向にもってくためにはなんでもしよう！と思っていましたが、みんなも同じように思っていたみたいで、妥協は一切なくたくさんのアドバイスが飛び交っていい話し合いができました。

2日目はプロのバンコクFCとパチョムガイ大学との2試合。1試合目のバンコクFC戦ではみんな連携がよくなり始めてやれることの幅も広がってきたかな、いけるかなという印象でしたが、0-3の負け。

相手はというと…狙いはピヴォと飛ばしのパスで、ピヴォをあけるためのシンプルなランニングの質が高かった。そして両足をつかえて1つ1つのトラップの置き場がいいから、次のプレーがスムーズで距離感も広くとれる。そして決定力。という感じでした。

でもこっちの守備の内容もよくなってきていて後半は0-0。

3試合目は大学生との試合で、2試合を経て最後に形にしよう、絶対に勝つ！とチームで意気込んで臨みました。先制し、追いつかれるも1年生ウメの個人技から逆転、その後相手にまくられるも、ラスト20秒くらいで3人の崩しからまたウメの得点で3-3で終了。正直この試合が1番チームでまとまって闘えて、連係の中から個人のやりたいことも少し出せていたので勝ち切りたかったですが、それだけでは勝てないんだなということでもあるんだと実感しました。

ただ、一年生のこの短期間での驚異的な成長には本当にびっくりしました。

ぜひ学生リーグに参加して、もっとフットサルの楽しさを知ってほしいと思いました。

終わった直後は口々に悔しい、まだ自分の100パーの力だせてない、またリベンジしたい、という声。自分も同じ気持ちです。

自分個人の反省になりますが、正直この遠征では自分のプレーを出すこと以外のところでエネルギーを使っていたので、ガッツリ得意な形で勝負する機会はないかなと、不完全燃焼の感も否めません。でもそれも含めて今の自分の実力なのかなと感じました。

個人として十分通用したところ、逆に蹂躪されたところ、たくさんの発見がありました。タイの選手たちは自分の得意な形を持っていて、チームメイトに合わせることもよりいかに自分の得意なプレーで自分の力を示せるかを常に考えてプレーしている風なところがあ

りました。

日本でいう潤滑油キャラであっても、自分のやりたいことを強く持っているような感じです。

でもそれだから日本人がタイで通用しないかというところではないと感じたし、これはあくまで個人的な意見ですが、日本でやっていることの方が進んでいるし、うまくなる可能性はあるかもなと感じました。

とにかくこの経験を日本に持ち帰って常に意識して成長して、また挑戦してみたいです。

チームとしては、常にチャレンジすることを意識し、その中で上級生がうまくバランスを取って、選手間のコミュニケーションも密にしていけたし、それが試合をこなすごとに顕著に出てきたので、そういう意味での自信はついたかなと思います。ただ終わってすぐに「もう1試合やりたい！」ってみんなが言っていたし、満足した人はいないと思います。それはこれからに絶対つながるし、こういうハングリーな雰囲気をみんなで作っていかけてよかったなと思っています。

ちなみに2日目のナイトゲームで指揮を取った現役タイリーガーの軽部選手(兼監督)のスケジューリングやアテンド能力の高さには脱帽しました。

タイの魅力を伝えるには十分すぎる活躍でした。

でも1日目の時点で1年の堤○君がすでに MVP 級の活躍をしていたことには驚きました。さすがです。笑

3日目はW杯観戦。ポルトガルの10番と7番はなかなかまねできないけど、それ以外の選手の動き、持ち方は盗めるところ多いよね、と話していました。日本に帰ってTV録画を見ましたが、現地で観戦しないとわからないすごいプレーがたくさん思い出せます。

これを忘れないうちにアウトプットしてみるのが、当面の自分の目標です。

帰りのバスでは今回の大会全体のコーディネートをしてくださった真野さんにタイでのプロとしての生活についてたくさんリアルなお話を聞くことができました。

もう自分とスギは質問攻めでした。笑

今回のタイ遠征。めちゃくちゃ濃い4日間から半端ないモチベーションを持ち帰ることができました。行ってよかったなんてものじゃない！

この経験を生かしてさらに成長できるよう、頑張ります！

この遠征を企画してくださったユーロプラス様、F-net様、熱心に誘ってくださったYJRさん、現地に帯同してくださった金子監督、ユーロプラス伊藤さん、真野さん、軽部さん、そして一緒に戦ってくれたメンバー、本当にありがとうございました。あとガイドのアレックスもありがとう！笑